

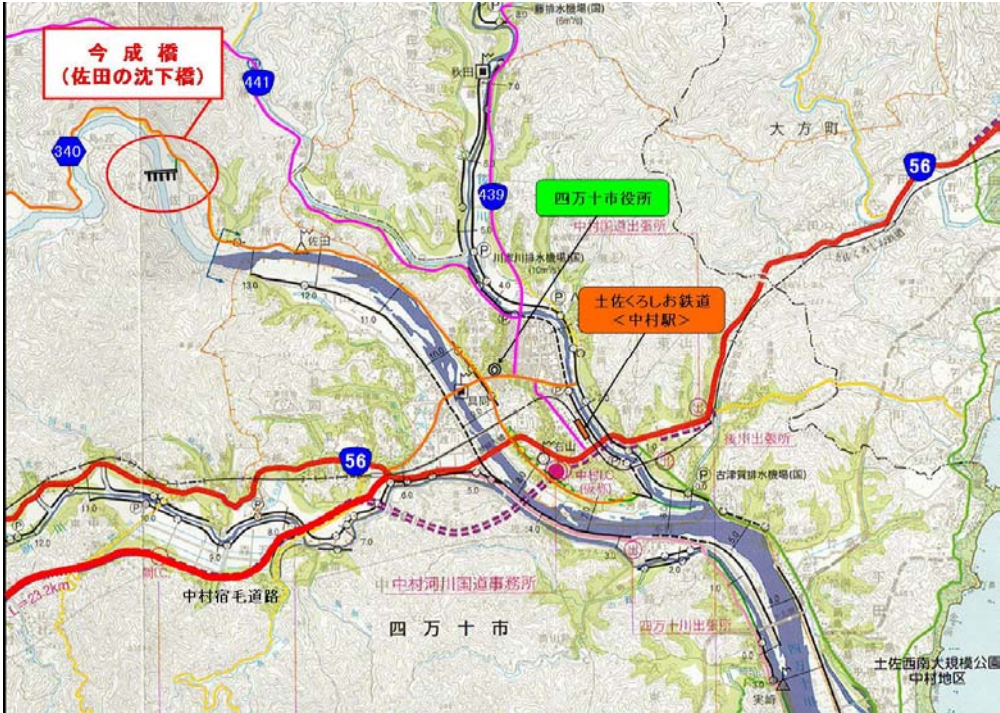


観光社会資本の事例

テーマ	四万十川沈下橋〔今成橋:(通称)佐田沈下橋)〕
<p>【施設の状況写真】</p>  <p>豊かな森林と豊富な水にとけ込みひっそりとたたずむ沈下橋。四季色とりどりにその姿を変え、美しい風景となっている。地元住民の生活道路のみならず、観光客の利用も多い。</p>	
<p>【施設の利用写真】</p>  <p>毎年春に開催されている地元イベント「四万十川リバーサイドフルウォーク」で沈下橋を渡る地元住民や観光客。</p>	
<p>【観光資源としての利用状況】</p> <p>四万十川沈下橋は、本流・支流合わせて47橋があり、その中で今成橋は通称「佐田の沈下橋」として観光客になじみのある沈下橋です。</p> <p>今成橋(佐田の沈下橋)は、四万十川最下流に位置し、四万十川で最長の沈下橋です。</p> <p>地元観光協会では、春・夏には、四万十川周遊バス(川バス)や、沈下橋めぐり観光タクシーなどによる観光のほか、遊覧船や屋形船での川からの観光など、重要な観光資源のひとつとして、利用されています。</p>	

テーマ	四万十川沈下橋〔今成橋(通称)佐田沈下橋〕
<p>【社会資本の基礎データ】</p> <p>名称 今成橋(佐田の沈下橋)</p> <p>所在地 高知県四万十市今成向イ</p> <p>事業名 -</p> <p>事業主体 四万十市(旧 中村市)</p> <p>事業期間 昭和46年度架橋</p>	
<p>【社会資本の役割・効果】</p> <p>四万十川流域は、台風による大雨で、毎年のように度重なる水害を受けてきました。したがって、川の兩岸の地域を結ぶ橋梁は、本来、台風等により川の水位が上昇しても通行できる様に高い位置に架橋することが望ましいものです。</p> <p>しかしながら、川幅が広い箇所では、橋を架けるにも長大橋となり技術的に難しく費用もかかります。そこで、やむなく技術的に施工が比較的容易で費用も安くすむ沈下橋での整備がなされました。</p> <p>沈下橋は、河川の増水時には、自身を水面下に沈下させて川の氾濫を防ぐとともに、自身の流出を防ぐことによって道路としての役割を維持する、すぐれた機能を有しています。</p> <p>現在、この独特な橋の形状は、川の景観と調和して、四万十川観光のワン・シーンを美しく演出しています。</p>	
【位置図】	
<p>【関連ホームページ】 四万十川市役所(イベント案内等) http://www.city.shimanto.lg.jp/ (財)四万十川財団 http://www.shimanto.or.jp/</p>	